

平成 21 年度第 3 回 サイバー・キャンパス・コンソーシアム  
看護学グループ運営委員会 議事概要

- I. 日時:平成 22 年 3 月 25 日(木) 午後 0 時から午後 2 時 45 分まで  
II. 場所:社団法人私立大学情報教育協会事務局 会議室  
III. 出席者:石橋委員、宮本委員、仲井委員、井端事務局長、森下、恩田

配布資料

- (1) 名簿
- (2) 委員検討案①②
- (3) 看護学のコア・カリキュラム
- (4) 特定看護師導入 記事
- (6) 分野別情報教育まとめ
- (5) 前回議事録

IV. 検討事項

1. 資料確認後、本日出来上がった案を来年度以降にサイバー研究員に配信し、アンケートをとり、最終案を作成していただく旨を説明した。前回の委員会の続きとして看護学の情報教育について、委員から頂いた案をもとに議論していただいた。参考として事前に看護学のコア・カリキュラム、医学、歯学、薬学の情報教育案を配布した。最初に、各委員から原案の説明をして頂いた。資料①より、情報導入においては、透明化、効率化、標準化が重要であり、具体的には生涯電子カルテであり、医・歯・薬学に共通する概念であり、看護は看護の立場としてどのような関わりを持つのが今後の課題である。これらのことを踏まえて情報教育に何らかの形で反映させたいとのこと。資料②は、以前配布した中央教育審議会の資料や私情協の学士力の資料を参考に、コア・カリキュラムを反映し、情報教育に特化して検討し、情報教育に組み込んで作成した。前回の委員会でも、情報の収集、分析、統合、発信を主に柱となり、他の委員会でも共通する項目であった。到達目標 1 は、基本的な看護学であり、情報リテラシーに関連する内容を含めた。また情報管理においての必要な能力とした。医師などのように電子カルテを盛り込もうとしたが、看護の分野ではまだはっきりとしていないため、含めていない。到達目標 2 は、専門部分で看護の実践力に関連している。事例に基づいて教育する。到達目標 3 は、卒論、論文等について、情報の解析・評価に言及した。情報検索技術を盛り込んだ。到達目標 4 は、どのように地域や患者、家族に情報提供を行うのか、収集した情報をソフトウェアを利用して、加工する情報提供に関する内容にした。かなり詳しくまとまっていたためこちらの案をもとに修正を行い、また、下記の意見を踏まえて看護学の情報教育案を作成することとなった。

- ・医学は医師業務、歯学は歯科業務に限定されるが、看護は保健師、助産師などに分かれ、領範囲限定が難しい。
- ・保健師や助産師などを含めた看護学で検討する。
- ・看護学を医学、薬学、歯学と連動させ、看護学の発展のためにどのように情報教育を使うのか。

- ・看護で扱う情報は薬学や他の分野とは異なり、人間科学に近い部分もあり、この部分をどのように連動させるのか。
- ・基本的なリテラシーにおいては、初年度教育に重なる部分があるが、さらに深く学んで欲しいところ、学問固有なところも含めた方がよい。
- ・看護学と図書館学を一緒にしても良いのか。
- ・看護実践でくると一つにまとまる。
- ・看護は大学以外に専門学校等が存在するため、職業と学問が近い。

## 看護学教育における情報教育(案)

平成22年3月25日

### 到達目標1

看護学に必要な情報管理の原則を理解し、基礎的な情報処理能力を身に付けている。

#### 【到達度】

- ① コンピュータやネットワーク、アプリケーションソフトを適切に利用できる。
- ② 情報管理の原則（情報公開、プライバシー保護、取り扱い倫理、セキュリティ）を説明できる。
- ③ 医療で扱う診療および看護記録の種類・特徴・要件を説明できる。
- ④ 電子化された診療情報の作成過程と管理の概要を情報システムの観点から説明できる。

#### 【教育内容・教育方法】

- ①は、基礎分野で学習した基礎的なコンピュタリテラシーのスキルを用いる。
- ②と③は、看護で取り扱う情報及び情報管理について説明し、診療記録及び看護記録とその法的意味を講義・演習する。
- ④は、看護情報を検索・収集する過程におけるアナログ情報とデジタル情報及びその管理について、講義で理解させる。

#### 【到達度確認の測定手段】

- ①は、口頭試問、レポートで確認する。
- ②と③は、小テスト、演習などで確認する。特に記録の法的な解釈に関する正しい取り扱いを理解させる。
- ④は、個人或いはグループ発表にもとづいて、学生同士あるいはグループ担当教員が評価する。引用など知的所有権のルールに基づくプレゼンテーションで評価する。

### 到達目標2

情報通信技術を活用して、看護に必要な情報を収集・解析できる

#### 【到達度】

- ① 看護上の問題点を解決するために必要な医療・看護の情報源を選択し、具体的な情報を検索・収集し、整理できる。
- ② 看護事例の取り扱いに関する個人情報保護、守秘義務の考え方に照らして正しい情報収集と整理ができたか判断できる。
- ③ 研究論文のクリティクやEBMの重要性に照らして問題を分析的・批判的に捉えることができる。

### 【教育内容・教育方法】

- ①は、看護上の問題及びその問題を解決するために必要な情報源及び情報について説明し、情報の検索、収集を演習する。更に、看護上の問題をもつ事例を提示し、その問題を解決するために必要な情報の検索・収集と整理を行わせる。
- ②は、学生個々に個人情報保護に留意しながら整理し、グループ討論を行い、その結果を発表する。
- ③は、適切な看護研究データに基づいて、看護の質的・量的な視点から評価させる。また、図書館医療情報検索システム（OPAC、MEDLINE 等）を通じて検索させ、批判的吟味を行わせる。

### 【到達度確認の測定手段】

- ①は、学生が実際に検索・収集した情報が目的を達成するのに必要な情報であったか、不要な情報や誤った情報、不適切な情報を収集していないかを確認する。
- ②と③は、グループ討論の結果発表は学生同士あるいはグループ担当教員が評価する。特に「看護師の倫理として個人情報や守秘義務、知的所有権についてどう考えたかについて意見交換する。科目責任者は発表及び意見交換への参加度を評価する。

### 到達目標3

情報通信技術などにより、看護に必要な情報を適正・適切に活用できる。

#### 到達度

- ① 収集した情報を、ソフトウェアを用いて目的に応じた形に加工できる。
- ② 対象の情報提供ニーズ充足のための資料を作成できる。
- ③ 情報通信技術を活用して作成した情報を提供できる。

#### 教育内容・教育方法

- ①は、ソフトウェア(ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフト)等を用いて、情報を加工させる。
- ②は、対象に向けた情報提供資料を作成する場合において配慮すべき点について考えさせ、資料を作成させる。
- ③は、情報を提供するための情報通信技術の活用とその結果についてプレゼンテーションさせる。

#### 到達度確認の測定手段

- ①は、実習上の課題を与え、ソフトウェアを用いて適切な形に加工できたか確認する。
- ②は、作成した図表が対象向けの資料として、適切な配置や配慮がなされているか、作成した資料の提出を求め、解りやすい用語や意味のあるレイアウトなど配慮がなされているかを確認する。
- ③は、プレゼンテーションは指導者及び担当教員が同席して評価する。特に活用した情報通信技術が適切に使われているか評価する。

### 2. 今後の活動について

今回の原案を再度検討し、修正があればメーリングリストにて議論して頂き、締め切りを3月27日までとし、私情協の第54回総会にて提案する。また、来年度の初めにサイバー研究員に委員会案を配信し、意見等を伺い、頂いた意見を次回委員会までにまとめる。その意見を情報教育案に反映し、最終案を作成する。なお、今回が本年度最後の委員会であり、次回は来年度の6月に開催予定である。

以上